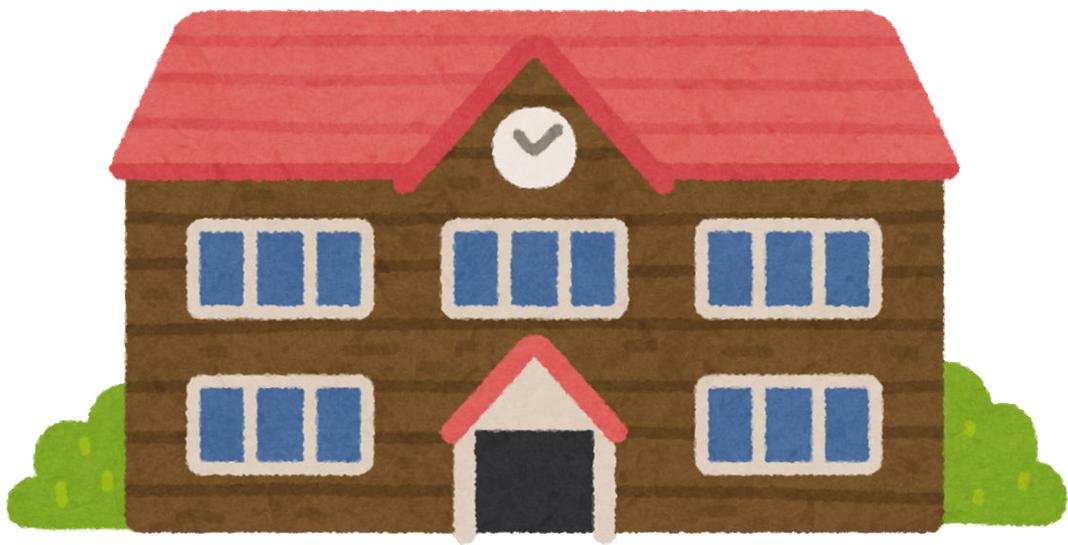


# 特色ある学校づくりに 向けた調査報告書



令和6年12月  
戸田市議会 文教・建設常任委員会



## 目次

1. はじめに	1
2. 調査報告	2
(1) 武蔵野市民科（東京都武蔵野市）	2
(2) 40分授業午前5時間制（東京都目黒区）	5
(3) 約半世紀前から続く個別最適な学び（愛知県東浦町）	8
(4) 妙高型イエナプラン教育（新潟県妙高市）	11
3. おわりに	13

## 1. はじめに

本市では、近年、子供たちのデジタルリテラシー（情報活用能力）を養うべく、最先端の ICT 教育を積極的に取り入れています。文部科学省の GIGA スクール構想実現に向けて、一人一台のタブレット端末が付与されており、子供たちは、それらを活用して、自律的に学びを深めています。また、産学と連携しながら、最先端の学習システムの実証にも取り組んでいます。一人一人の習得度合に合わせた個別最適化学習を推進しており、これらの取組は、年間を通して全国からの視察がいとまなく続いています。

他方で、子供たちを巡る環境は一層、深刻さを増しています。文部科学省の調査によると、全国の小中学校で不登校となっている児童生徒は 11 年連続で増加しており、本市も例外ではなく、小中学校ともに不登校が増加傾向にあります。

当委員会においても、最先端のリテラシー教育を推進しつつも、子供たちが主体的・本質的に学べる学校環境の整備についても一層注力していくべきではないか、との声が以前から上がっており、他の自治体の先進的な事例から知見を得るべく、今回の視察を行って参りました。

全国を見ますと、創意工夫を凝らしながら、「特色ある学校づくり」を進めている学校が多数あります。子供たちの多様な状況に応じた支援・指導体制を確立している学校はどのような取り組みを行っているのか、この度の視察の総括として報告書をまとめました。

今後の本市の教育を考える上での一助となれば幸いです。

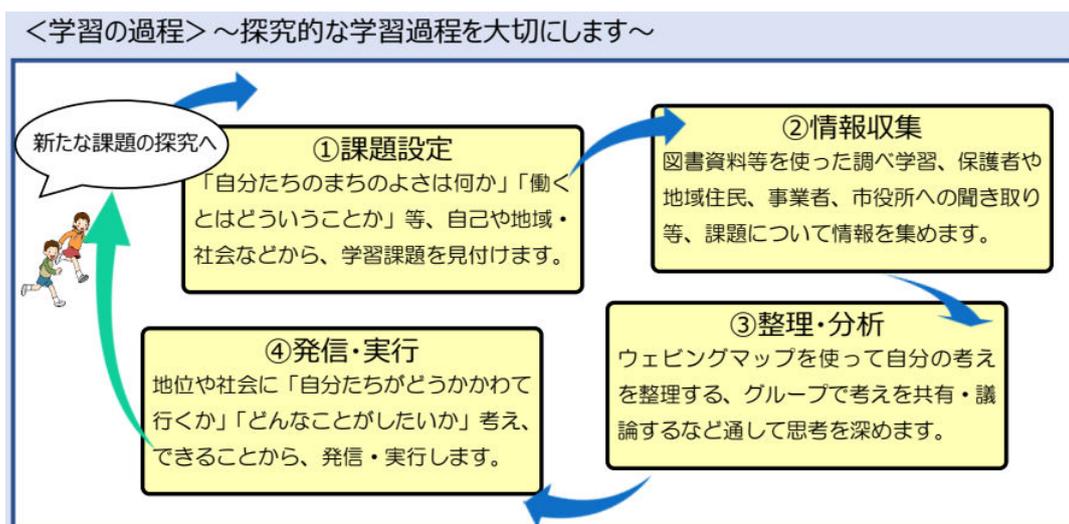
## 2. 調査報告

### (1) 武蔵野市民科（東京都武蔵野市）

武蔵野市では、平成24年度に策定された武蔵野市第5期長期計画において、シチズンシップ教育やキャリア教育の推進についての記載がなされ、平成29年度に武蔵野市民科カリキュラム検討委員会を設置、令和元年度からの試行期間を経て、令和3年から武蔵野市民科の本格実施が行われております。

#### ○ 武蔵野市民科とは

学校の授業において、社会の一員として、よりよい地域づくり、社会づくりに参画していく資質及び能力の育成を目指す学習です。市民として、自己、学校、地域及び社会の中から課題などを見つけて解決しようとする取り組みを通じて、自他共に幸福な人生の創り手となるために必要な「自立」「協働」「社会参画」に関する資質及び能力を育てることを目標に、小学校5年生から中学校3年生を対象に、武蔵野市民科の学習が行われます。



出典：市立小・中学校が進める「武蔵野市民科」の取組紹介<sup>1</sup>

<sup>1</sup> [https://www.musashino-](https://www.musashino-city.ed.jp/modules/ictea_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20240412175732.pdf)

[city.ed.jp/modules/ictea\\_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20240412175732.pdf](https://www.musashino-city.ed.jp/modules/ictea_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20240412175732.pdf)

## <取組の内容>

<b>①実施学年等</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○小学校第5学年から中学校第3学年まで、各学年で年1単元以上実施します。</li><li>○特別支援学級は、子どもの実態に応じた指導計画をできるだけ1単元以上位置付けます。</li></ul>	<b>②教育課程上の位置付け</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○総合的な学習の時間、各教科、道徳科、特別活動等を教科横断的に組み合わせます。</li><li>○取組は、中核となる教科等で評価をします。</li></ul>
<b>③学習の基本的な考え方</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○探究的な学習過程による指導計画を作成・実施します。</li><li>○指導計画を作るときは、「どんな資質・能力の育成を目指すのか」を明らかにします。</li></ul>	<b>④取り扱う学習テーマ例</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○キャリア発達</li><li>○福祉・ボランティア</li><li>○まちづくりへの参画</li><li>○武蔵野市の魅力発信</li><li>○安全・災害</li><li>○主権者</li><li>○国際理解</li><li>○伝統・文化理解</li></ul>

出典：市立小・中学校が進める「武蔵野市民科」の取組紹介<sup>2</sup>

## ○ 武蔵野市民科の特徴・効果・メリット

- ・ 学習のサイクルの中で、特に発信・実行を重視

①課題設定、②情報収集、③整理・分析、④発信・実行のサイクルで学習が進められますが、その中でも、④の発信・実行に力を入れます。いわゆる総合的学習の場合、学習の成果をまとめ、表現することで終わりがちですが、武蔵野市民科の場合、自分たちがどうしていきたいかという思いを大事にしておき、発信する、実行するというところに重きが置かれております。

- ・ 武蔵野市民科による成果

環境問題に対して課題意識を持った児童が、何か自分たちにできることはないかと考え、エコバックを作成、販売した事例や、市の施政方針を調べ、自分たちの街に対する課題意識を持った生徒が、ベビーカーの貸し出しサービスを市長に提言した事例など、各学校が武蔵野市民科を通じて発信・実行した取組が、実現されてます。

<sup>2</sup> [https://www.musashino-](https://www.musashino-city.ed.jp/modules/ictea_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20240412175732.pdf)

[city.ed.jp/modules/ictea\\_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20240412175732.pdf](https://www.musashino-city.ed.jp/modules/ictea_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20240412175732.pdf)

- ・武蔵野市民科の本格実施により、児童生徒及び教員が手応え

児童生徒は、成果が形になったことにより達成感を感じ、一緒に取り組んでいる教員もそれに手応えを感じていました。また、この取組を発展させ、児童生徒の主体性を学校行事にも広げていく動きが出てきており、視察先の武蔵野市立大野田小学校では、児童が話し合っ、自分たちの運動会を自分たちでデザインしていました。

## ○ 武蔵野市民科の所感

武蔵野市民科では、「自立」「協働」「社会参画」に関する資質・能力を育てるという明確な目標の下で学習が行われておりました。これを目標に掲げるという方針は、カリキュラム検討委員会において、長い時間をかけて検討した成果であり、今後、これらに長けた市民が数多く輩出されるものと感じました。机上の学習よりも実践・実現を重視し、地域課題の解決等を通じたPBLが行われており、優れた取組となっていました。

## (2) 40分授業午前5時間制（東京都目黒区）

目黒区では、平成14年度から、目黒区立中目黒小学校において40分授業午前5時間制を開始し、令和元年度からは文部科学省の研究開発学校の指定を受け、40分授業午前5時間制の実践及び調査研究に取り組まれております。また、令和5年度までに全22校の区立小学校中、17校が40分授業午前5時間制を導入し、令和8年度を目途に全ての区立小学校で導入する予定です。

### ○ 40分授業午前5時間制とは

40分授業午前5時間制とは、授業1単位当たりの時間を40分間とし、集中力の高い午前中に、5単位時間分の学習を行うという時間割です。

### ○ 40分授業午前5時間制の特徴・効果・メリット

#### ・時間の有効活用

小学校では、通常45分の授業が1コマとして扱われるところ、研究開発学校の指定を受けた目黒区では40分の授業を1コマとして扱うことができ、年間1,015コマの授業を前提とした場合、5,075分の時間を生み出すことが可能となります。生み出された時間の使い方は各小学校の裁量に任されており、例えば、生み出した時間を活用して特色ある教育活動を行う学校もあれば、教員のための時間としての活用をする学校もあり、その活用方法は様々です。また、40分授業午前5時間制を採用することにより、帰宅時間が早くなり、放課後の時間活用において余裕が生まれるという保護者からの声も寄せられたそうです。一方で、共働きの家庭における、帰宅時間が早くなってしまふことによる課題に対しては、市長部局と連携し、居場所づくりの対策が講じられています。

- ・午前中の授業による集中力の維持

また、午前中に5単位時間分の授業を行うことにより、集中力の高い時間帯で授業に取り組むことができます。なお、昼食の時間は、通常より遅い時間になっているとのことですが、その分、朝食をしっかりと取るなどにより、生活の質の向上につながります。

- ・学びの質の維持向上

授業時間が短くなってしまっても、学力の維持ができるのかという課題に対して、令和元年度と令和5年度の全国学力学習状況調査を比較すると、数値が伸びており、学力が維持できていることが示されています。また、同調査における学びへの意識の項目でも、全国平均と比較し、高い意識を保っていることが判明し、授業時間の短縮が学力及び意識に対してマイナスに働いていないという結果となりました。40分授業午前5時間制における学びの質の向上に向けては、目黒区研究開発学校推進委員会が立ち上げられ、授業デザインを学校間で情報交換し、情報交換した成果が全教員で共有できる仕組みを構築しており、40分授業午前5時間制の発展に向け、導入校が一丸となって取り組んでいます。

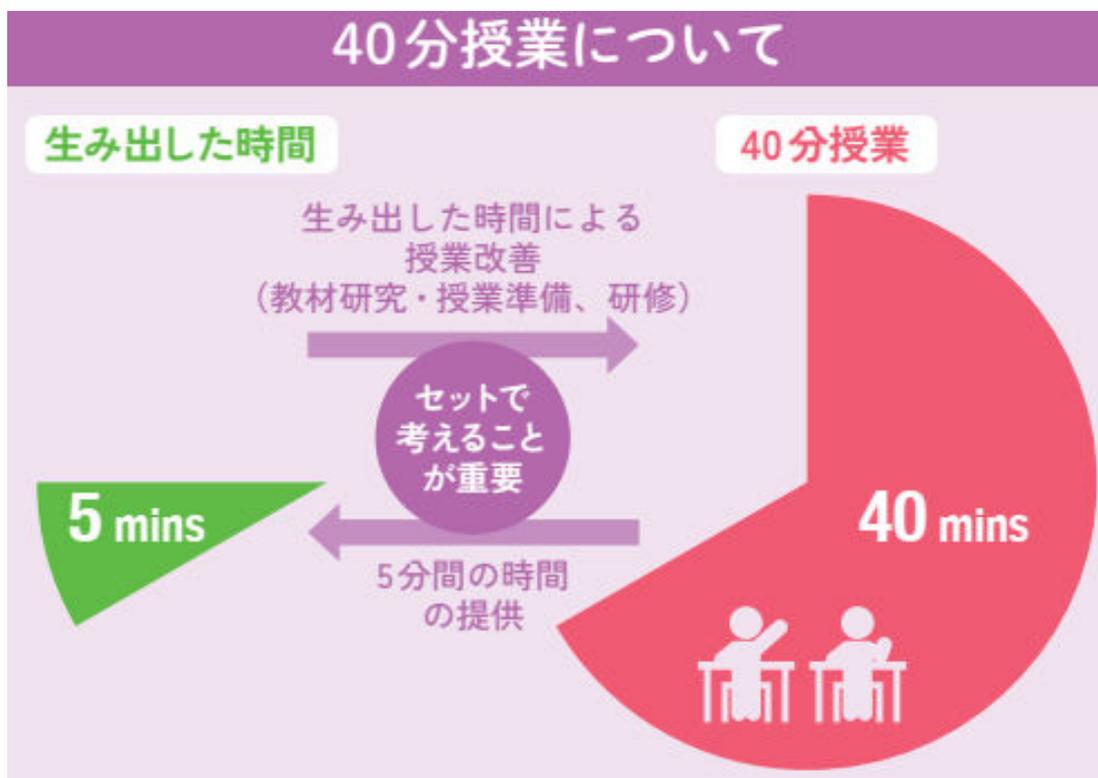
### 📅 一日の生活時程例

研究開発学校の一日の生活時程を通常の45分授業午前4時間制の時程、40分授業午前4時間制の時程と比較し、その特徴を以下のようにまとめました。



出典：目黒区教育委員会冊子「40分授業午前5時間制を生かした創意工夫ある教育課程の開発」(1)<sup>3</sup>

<sup>3</sup> <https://www.city.meguro.tokyo.jp/documents/8157/c.pdf>



出典：目黒区教育委員会冊子「40分授業午前5時間制を生かした創意工夫ある教育課程の開発」(1)<sup>4</sup>

### ○ 40分授業午前5時間制の所感

40分授業と午前5時間制を組み合わせることで時間を生み出し、その生み出された時間を各校ごとに様々有効活用されている点に制度のメリットを感じました。また、その後も、制度による効果の検証と検証結果の公表がしっかり行われており、参考にすることができました。

<sup>4</sup> <https://www.city.meguro.tokyo.jp/documents/8157/c.pdf>

### (3) 約半世紀前から続く個別最適な学び(愛知県東浦町)

東浦町では、約半世紀前から、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせた学習が行われていました。

#### ○ 約半世紀前から続く個別最適な学びとは

東浦町立緒川小学校では「個別最適な学び」を意識した学習が取り入れられ、教師が子供の個性に応じて作成した「単元内自由進度学習」が「一人学び」の一つとして行われており、子供たちは単元の目標と時間を自ら決めて取り組んでいます。

これにより、自らの学習を調整し、粘り強い取り組みを行おうとする姿勢や、学ぶ習慣、自己学習力を身に付けることができます。

また、「協働的な学び」では、小グループでの学び合いだけでなく、学年や学級を解体するなど、様々な学び合いの学習形態が実践されております。自分の考えをしっかりと持ち、自己を見つめ、他者と対話することが求められ、他者と関わることで、自分の考えを見直し、他者の考えを取り入れ、自分一人では解決ができない事象への気づきや深まりにより、解決へと結びつける「学び合い」が充実しています。

#### ○ 約半世紀前から続く個別最適な学びの特徴・効果・メリット

##### ・ はげみ学習

「はげみ学習」として校内の数か所に棚が設置されており、6年間で学ぶ「文字」「計算」「英語」「体力」「音楽」などのプリントが入っています。プリントを反復練習することで、習熟や定着を図り、自分で自由に「一人学び」ができる仕掛けがしてあります。

- ・ オープンタイム（４～６年生）

一人一人が自分の興味・関心に基づくテーマを設定して、学習活動を計画し、活動を進める学習です。Ⅰ期８時間、Ⅱ期１０時間、Ⅲ期は３年生も含み７時間行います。

分野によっては、地域の方の協力を得ながら、全教員で指導にあたります。

- ・ 集団活動（独立国活動）

集団活動を通して、自分自身の生活をより豊かなものにする実践力を養う活動です。

１～３年生は所属する学年「くに」を創造し、４年生以上になると、選挙で選ばれた大統領・首脳部<sup>5</sup>が、赤じゅうたんが敷かれたオープンな議会議室で、自治活動やおがわっ子議会を通して、学校全体（独立国）の創造を行います。

- ・ ノーチャイム

チャイムを鳴らさず、自ら時計を見て時間の管理を行います。

- ・ 周囲の環境

プレイルーム、ホール、緒川ランドには田んぼや畑、中庭の川には魚が泳ぎ、バーベキュー台も設置されています。産地でもある巨峰棚は地域の方の協力・指導により、収穫された巨峰は児童たちに配られます。

---

<sup>5</sup> 緒川小学校では、立候補した児童の中から、「選挙」により、「大統領」や「首脳部」を決めていました。なお、現町長は、緒川小学校の大統領経験者であるとのことでした。



はげみ学習のプリント棚



おがわっ子議会の議会室

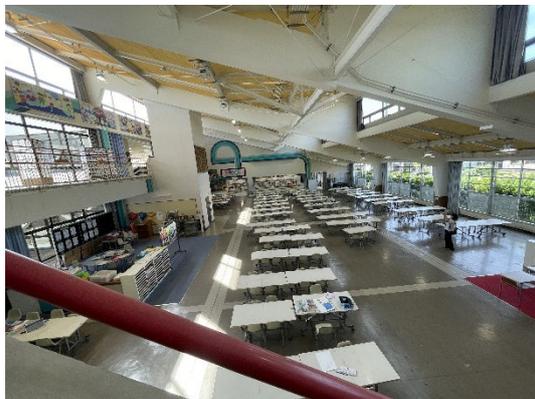
## ○ 約半世紀前から続く個別最適な学びの所感

「くに」のなかにそれぞれの子供たちがゆったりと学べる居場所があり、「不登校はほぼゼロ」とのことでありました。約半世紀前から続く個別最適な学びは、豊かな人間形成を育み、一人一人の子供らしさの学びに寄り添い、特性や良さを読み取りながら、先生方も共にワクワクする学びを追求するという姿勢を感じました。

また、タブレットは教育の補完的な道具の一つとして位置付けられており、地域の自然を活かした教育の中で、子供たちが生き生きと輝く姿を目の当たりにしました。



オープンな教室



広々としたスペースを備えた空間

#### (4) 妙高型イエナプラン教育（新潟県妙高市）

妙高市では、令和の日本型学校教育の実現のため、教育システムの変革を試みており、令和3年度から新井南小イエナプラン教育メソッドに取り組んでいます。また、今後として、妙高型イエナプラン教育を妙高市内で拡大させていく予定です。



妙高市立新井南小学校（外観）

#### ○ 妙高型イエナプラン教育とは

令和の日本型学校教育の趣旨とイエナプラン教育の特徴を十分に理解した上で、両者の融合を図るものです。妙高市では、妙高市立新井南小学校が、妙高型イエナプラン教育の先行モデル校として指定され、新井南小イエナプラン教育メソッドと称した研究開発に取り組まれていました。また、妙高市内の他の小中学校でも、それぞれの学校ごとの特徴とイエナプラン教育の特徴を掛け合わせた「妙高市立〇〇小（中）イエナプラン教育メソッド」を研究開発していくことに取り組まれており、全市的な取組を目指しています。

## ○ 妙高型イエナプラン教育の特徴・効果・メリット

### ・ 異年齢学級編成

イエナプラン教育の特徴として、異年齢の学級集団を構成するという点が挙げられます。従来、学校では1年生、2年生、3年生と学年ごとに学級集団を構成するが、異年齢の学級集団を構成することにより、歳を超えた学びが発生します。

### ・ 4つの基本活動

妙高型イエナプラン教育における4つの基本活動として、輪になって話す対話、異年齢による遊び、行事により学び、そして仕事（学習）が挙げられます。

特に、学習は、ブロックアワーとワールドオリエンテーションに分かれています。ブロックアワーとは、子供が個別主体的、偶発的に協働的な学びとなるように、構成した自由進度型の教科の学習を指し、ワールドオリエンテーションとは、教科で学んだことのみならず、自ら興味のある分野への学びを、深めたり、広げたりするような活動を指します。

### ・ 現場における実感

現場サイドの先生の視点として、妙高型イエナプラン教育の実践により、子供の学びに違いを感じるとの感想がありました。子供が自ら考えたり、子供同士で学ぶ機会が増えて、成長している様子が見受けられるとのことでした。一方、現場サイドの負担感として、異年齢学級を見ることになるため、複数の年次の学習を押さえておく必要があり、一定の負担感があるとのことでした。

## ○ 妙高型イエナプラン教育の所感

小規模な学校だったからこそ比較的簡単に実現できたものの、子供の見通す力の向上などのメリットがあり、良いものを取り入れていこうとする姿勢が参考になりました。

### 3. おわりに

これからの私たちは、時代の変遷や文明の進化、人々の気質の変化に応じて、まるで生き物のように動き続けるテクノロジーと共生していく必要があります。その未来が苛酷なものとなるのか、穏やかなものとなるのか。その道筋に光を見いだすのが「教育」であると考えます。教育の目的が、未来の日本や戸田を支える人財を育てることであるなら、その最適な方法は何でしょうか。そのヒントはどこにあるのでしょうか。

本年度の文教・建設常任委員会は、戸田市 SEEP プロジェクトや戸田型オルタナティブプラン等を実践し、歩み続ける「戸田市の教育」をさらに支援したく、「特色ある学校づくり」を推進している他自治体の学校教育を調査しました。

ここに挙げる4つの事例は、それぞれが独自の特徴を十分に発揮した教育の実践です。特に注目すべきは、「不登校ゼロ人」の学校が存在し、児童一人ひとりが自分の居場所を実感できる環境が整っていることです。これは、まさに誰ひとり取り残されていない学校であり、誰もが行きたくなる学校です。改めて、学校が楽しいところ、自ら学ぶところ、学校こそが子供たちの居場所であるということを再認識しました。

日本全国の学校は、その歴史や人口、地域性、社会状況に応じて、それぞれの教育の特色を活かしています。地域における最適解が、本市にとっての最適解とは限りませんが、それを踏まえても、この4つの事例は参考に値する教育であると考えます。

今回の調査報告が、これからの本市の教育に役立つことができ、その発展に少しでも寄与することができれば幸いです。





戸田市議会 文教・建設常任委員会

委員長  
副委員長  
委員

三輪 なお子  
野澤 茂雅  
みうら 伸雄  
そごう 拓也  
花井 伸子  
伊東 秀浩  
榎本 守明

